

未来の大人のみんなに贈る

森と木の話



『森と木の話』編集委員会編

はじめに

この冊子は長野県上小地域の森づくりと木づかいを中心に、私たちの暮らしと森や木とのつながりについてまとめた本です。

なにげなく暮らす日常の中に森からの贈り物があること、それは多くの人々の手を経て届けられていること、それが生まれ育った森はどんな所かなど、少しでも興味を持ってもらえればうれしいと思います。

そして、森は遠くからながめるだけの存在ではなく、森に親しみ森から運ばれた木材を使うことで、森づくりに貢献し、めぐりめぐって私たち自身のためにもなることを知ってもらえればさらにうれしいと思います。

ところどころに皆さんへの問いかけがありますので、考えながらゆっくり読み進めてください。

それでは、森と木の世界に出発です。



第一幕 宇宙から

写真を見ながら想像してください。
ここは宇宙です。
真っ暗な宇宙の中に地球がぼっかり浮かんでいます。
とても美しいですね。

何が見えるか想像してください。
青い地球をおおように薄い大気層があります。
そして、海があり陸地もあり日本列島が見えますね。

もう少し近づいてみましょう。想像してみてください。

南極の白い氷河を、アフリカの大草原や砂漠を、南米アマゾンの緑のジャングルを、ヨーロッパから中国まで繋がるシルクロードの砂漠やオアシスを、緑あふれる日本を・・・。

この薄い大気層の下で人間や様々な生物が生きていることに何を思いますか。夜の街は光にあふれていますが、一つ一つの灯りに人々の暮らしがあると思うと愛おしささえ感じませんか。そして、国境などどこにもない、地球は一つ、全ての生き物は運命共同体だと感じませんか。

今、この地球をおおっている大きな問題があります。氷河は融け森林は減少し砂漠化が進み、大規模な山火事が発生し、異常気象が世界各地で起こっています。何かへんです。



ここで、皆さんへの最初の質問です。
何が原因でこのようことが起きているのでしょうか？



それでは、次はもっと森に近づいてみましょう。
日本の、しかも長野県上小地域の森に降り立ちます。

第二幕 上小の森林にて

宇宙から森に降りてきました。
上小の森を知るまえに一番目の質問の回答です。
皆さんは、地球温暖化が原因ではないかと、うすうすは気がついていたと思います。正解です。

右の写真は、上小地域にある森林の写真です。皆さんもきっと見たことがある木だと思えます。

よく観察して下さい。木全体の立ち姿を、そして葉や枝を。

この木は上小地域でも一番多いカラマツという木で、冬になると落葉する針葉樹で、新緑も黄金色の紅葉も美しく、木材としての強度も強い長野県を代表する木です。



ここで二番目の質問です。

問1 地球の陸地のうち森林の占める割合は？

① 7割 ②5割 ③3割

問2 日本の国土で森林の占める割合は？

① 7割 ②5割 ③3割

問3 日本で森林の多い都道府県ベスト3は？

高知県 岐阜県 長野県 岩手県 秋田県 北海道

答えです。

問1 3割です。ちなみに地球表面の比率では約1割です。

問2 7割です。世界的にも日本は森林が多いのです。

問3 一番北海道、二番岩手県、三番長野県 です。

森林は、地球上では思った以上に少なく、しかも毎年減少を続けています。一方日本は森林に恵まれていて、中でも長野県は全国3番目ですから、長野県は世界的にみても森林の多い地域であることがわかります。



ここで三番目の質問です。

皆さんは木を伐ることをどのように思いますか？

最後まで読むと考えるためのヒントがたくさんあるよ。

次幕以降でいよいよ核心に入っていきます。



第三幕 森の一生

木を伐ることについて考える前に、自然界での森の一生を簡単にたどってみましょう。

- ① 風などで木が倒れると森の中に明るい所(ギャップ)が発生します。
- ② ギャップに光が入り若芽が発生し成長を始めます。(陽樹の発生)
- ③ 光を必要とする陽樹の下で、少ない光でも育つ陰樹が育つようになります
- ④ 数百年の時を経て陰樹中心の森となります。
- ⑤ 森の別の場所でギャップが発生し再び森づくりが繰り返されます。



風倒木等で森が明るくなる



森のギャップから上空を見る



明るくなったところで稚樹が育つ



最初は明るい森に



次第に陰樹中心の森に

自然の木にも寿命があり、いつかは枯れて倒れます。
台風で倒れたり、松くい虫などの被害で枯れることもあります。
大木が倒れ森が明るくなると、太陽の光を浴びて新たな芽生えが成長を始めます。
こうして、一つ一つの木は寿命がきても、新たな命が生まれることにより、森全体としては生き活きとしつづけ、何も変わらないように見えます。

私たちの体は、古くなった細胞が新しい細胞に常に入れ替わっていて、数年たつとまったく違った細胞になるといわれていますが、私たち自身はまったく変わったように見えません。

森もこれと同じで、古くなった大木が倒れそのあとに新しい若芽が育ち、森でありつづけます。

そして忘れがちですが、忘れてはならない大切なものがあります。
数百年におよぶ森の循環過程で作られる森の土です。土は森を育て、樹木はいつの日か枯れて土となります。森の土には無数の微生物が生きっていて、枯葉を土にしていく役割を担っていますし、地上部の樹木の数倍の炭素を土の中に貯めこんでいると言われています。目に見えないものが実は大切なんですね。

こうした自然界のサイクルに学びながら、「大きく成長した木を伐って木材として利用し、伐ったあとに苗木を植え、森を育て、私たちの暮らしにも役立ち、多くの生き物が生きる自然界にとってもいい森をつくり続ける」というのが林業という仕事です。

第四幕 私たちの暮らし

ここで、皆さんの身の周りにあるものを少し考えてみましょう。

皆さんが日常生活をおくるうえで大切なものを4つ考えてみてください。

まず食べ物ですね。暖かい着るものも必要です。それと住む家。これを衣食住といいます。

さて、あと一つは何でしょう。家族や友達と答えた人はきっと思いやりのあるやさしい人でしょう。

それはさておき、現代社会に生きる私たちにとって不可欠なものは、電気などのエネルギーだと思えます。

住宅はもとより、食器・家具など身の周りの道具から、暖房や料理に使う薪や炭に至るまで、かつて山村の人々は森と木を上手に利用して暮らしてきましたが、最近はそうでないものも身の周りに多いことに気がつきませんか。



ここで四番目の質問です。

よく見かける身の周りの製品のうち森や木から作られたものでない製品を考えてみてください。

そして、それらは何からできているかも。

ペットボトルやビニール袋などを思い浮かべた皆さんが多いのではないのでしょうか。これらは、石油などの化石資源とよばれているものから作られています。

ここで大切なことを皆さんと一緒に考えてみましょう。

木材でできたものと、ビニール袋など石油製品からできたものの、使い終わったあとの行く末です。

木材は森から生まれたものなので、森にいる多くの微生物などの力で分解することができ、いつの日か土となり、森が再生するための苗床になります。

いってみれば、木材は使い終わったあとも、森にある木なら倒れたあとも、次の森をつくる稚樹ちじゆが育つために役にたっている、ということになります。しかも、多くの生き物の住み家となりながら。

しかし、ビニール袋などは、川から海に流れ、その途中で細かくなってもマイクロプラスチックとなり海洋汚染を引き起こしていることは皆さんもニュースで聞いたことがあると思います。

ビニール袋などはもともと自然界にはなかったものなので、海や森にすむ微生物などの力を持ってしても簡単には分解できないということに問題があります。

私たちの暮らしを、自然界の力で分解できる木材などで作っていくということは、とても大切なことなのです。



第五幕 森と地球温暖化

地球温暖化という言葉は、皆さんもよく聞くようになってきていると思います。今の地球に生きる私たちにとって最大の課題といってもよいかもしれません。

温暖化を引き起こす要因の一つに二酸化炭素がありますが、これには、地球が数千万年から数億年にわたって地中に貯めてきた石炭や石油を、人間がたった数百年で使い、大気中に放出したのも含まれています。

石炭や石油を使って便利になった一方で、二酸化炭素を一気に放出し、地球温暖化の原因を作っているというのが現代社会といってもよいでしょう。

森の樹木は二酸化炭素を取り込むことで成長し、森から運ばれた木材は建物の一部となり二酸化炭素を保存します。

しかし、木は大きくなり年をとってくると二酸化炭素を吸収する力がおとろえてきます。

この大木を伐って木材として利用し、街のなかに二酸化炭素を貯蔵するとともに、森では木を植え二酸化炭素の吸収能力の高い若い森を作っていくという取組みが大切です。

地球温暖化による影響は皆さんが大人になったころ大きくなるといわれています。私たちは、化石資源を利用して一気に豊かになりましたが、これからは少しばかり不便になったとしても次の世代のことも考えて暮らしていくということが、実はとっても大切なことなのです。



*地球温暖化:石油や石炭を燃やして電気をつくったり、飛行機や自動車を動かしたりすると、二酸化炭素などの温室効果ガスが空気中に増えて地球の気温を上昇させてしまうことをいう。このことにより氷河が融け海洋面が高くなり島々が海に沈んでしまったり、豪雨などの異常気象が世界各地で起こったり、大規模な森林火災が発生する等様々な問題が地球上で生じている。

第六幕 上小の認証森林にて

自然素材である木材を暮らしの中で使うことの大切さは、これまでの説明で少しわかってもらえたのではないかと思います。

そして、大きくなった木を伐って、太陽の光を森林の中に取り込んで、若い木々を育てることの大切さも。

森林のどこかで木を伐って利用したとしても、若い森林を確実に育てることにより、草原のような明るい森林から成熟したうっそうとした森林まで含まれる多様性に富んだ森林とすることで、生物にとっても私たちの暮らしにとっても、むしろ有益なことがあります。

大切なことは、森林が再生できないほど過度に伐り過ぎないこと、伐ったら植え、健全な森林を持続的にきちんと管理し続けることです。これが三番目の質問の答えです。

このように森林がきちんと管理されているかを審査し認証する仕組みが森林認証制度で、世界中で広がっています。

審査は、生き物にとっていい森かどうか、木を伐ったあとにきちんと木が育つようにしているか、その森は社会のために役立っているかなど、いろいろな角度から幅広く行われます。

認証制度は、これらのことに配慮した森林経営を行っているか否かを判断するリトマス試験紙のような役割を果たすこととなります。

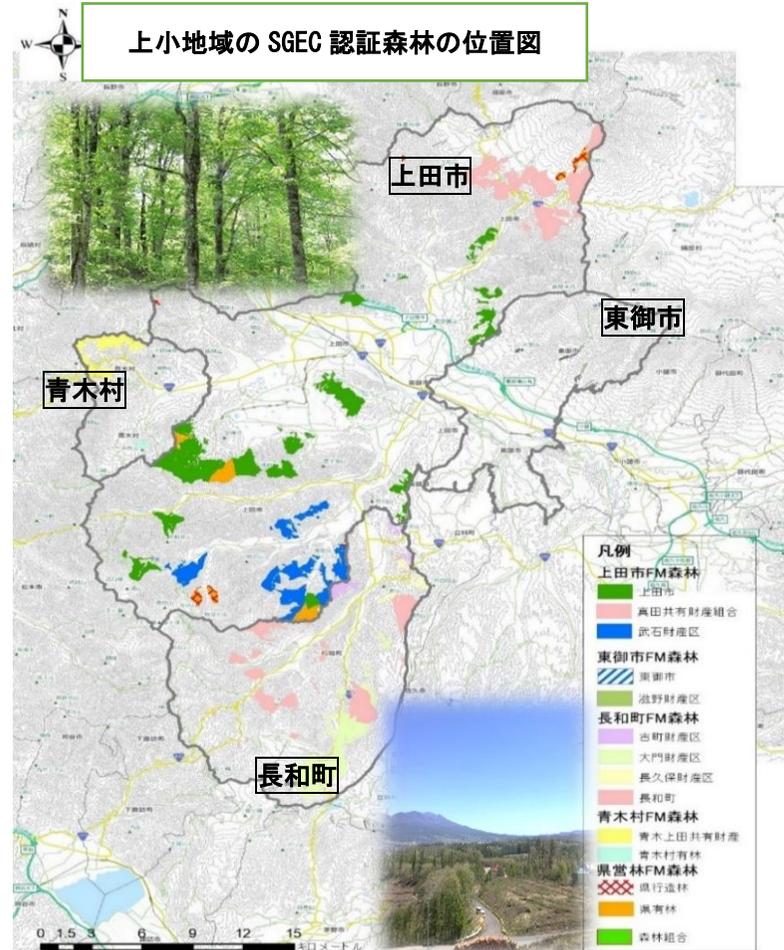
その一つが SGEC(エスジェック) 認証森林で、この森林から生産された木材を使うことは健全な森林整備のお手伝いをしている、ということにもつながります。

右図は上小地域の SGEC 認証森林の位置図です。

上小地域には約 1 万 ha の SGEC 認証森林がありますが、これは上小の森林面積の約 15%にあたり、全国平均の約 6%より多く、認証森林をフィールドとして様々な取り組みが行われていることを知ってもらいたいと思います。



左は SGEC のロゴマークです。
このマークが持続可能な森林経営を行っている森林の証明となります。



第七幕 林業の現場から

いよいよ、実際の林業の現場です。
木は植えたままではなかなか健全に育ちません。
様々な手入れが必要です

- ①地ごしらえのあと植栽を待つ森林。
枝葉を集めた柵と柵の間に植えます。



- ②苗木を背負ってひたすら植えます。



- ③ 苗木の成長を妨げる雑草の下草刈り。
防虫ネットを被り夏の暑い日の作業になります。



- ④ 間伐。木の成長に伴い、森の一生で3回程度の間伐が必要です。



- ⑤ 収穫を待つカラマツ林。

森林や木の状態をよく観察しながら、植栽から伐採までを繰り返していくのが林業の現場です。

植えてから木が育ち伐採して利用するまでには、とても長い年月が必要です。

もし、皆さんが苗木を植えても、自分で伐って利用することはほとんどできないでしょう。

この長い間には、台風で林道が壊れたり木が倒れたりするかもしれません。松くい虫やシカなどの被害を受けることもあるでしょう。

そして、何年もたち木が混みいってくると森林の境界もわからなくなるかもしれません。

そうならないように、道の手入れをしたり、森林の境界を確認したり、木の成長を調べながら次の手入れを計画したりする仕事も大切です。

遠くから見ると、誰もいないと思える森林でも、誰かがいつも見回っていることを知ってほしいと思います。

そして、目に見えない地道な仕事の大切さも。



第八幕 木材の生産から利用まで

ここでは、木材が森林から運ばれ板や柱になるまでを追ってみます。現場は上田市にある信州上小森林組合の現場です。

①ハーベスタという高性能林業機械で立木を伐採し造材します。



②フォワーダという機械に載せて山土場まで運びます。



③林道や作業道がとても大切です。



④山土場で SGEC 認証の印をつけます。



⑤トラックに載せ木材市場へ運びます。



⑥市場では大きさや用途により選別され製材所等へ運ばれます。



⑦製材所では、丸太を板や柱に切り、乾燥させ、表面の仕上げを行い製品にします。



⑧出荷を待つ板や柱



⑨住宅等に使われます。



写真ではとても簡単に紹介しましたが、木材市場では SGEC 認証の有無や、木材の良し悪しにより、板や柱に使われる木、合板に使われる木、紙や燃料に使われる木(チップ)等への仕分けも行います。

また、木材の加工工程では、木を張り合わせて集成材にしたり、プレカットといって機械で木に溝を掘ったりする工程もあります。

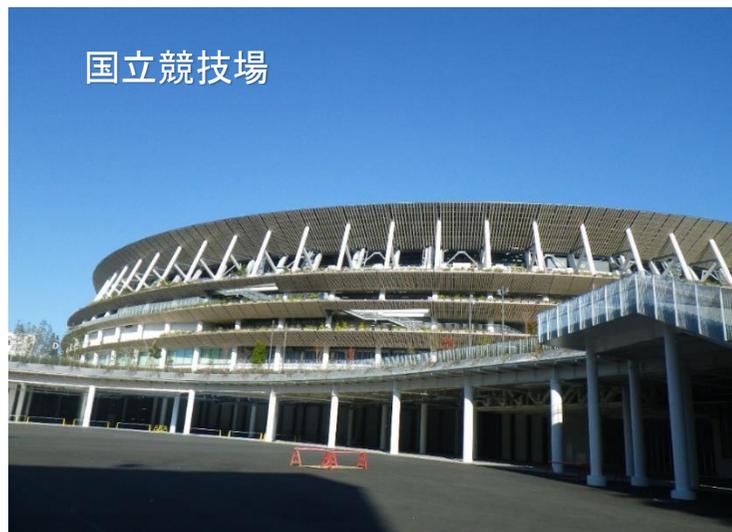
木材は、木の性質等に併せて様々なところに使われていますが、次幕では木づかいの現場について紹介しましょう。

第九幕 木づかいの現場～東京オリパラ施設～

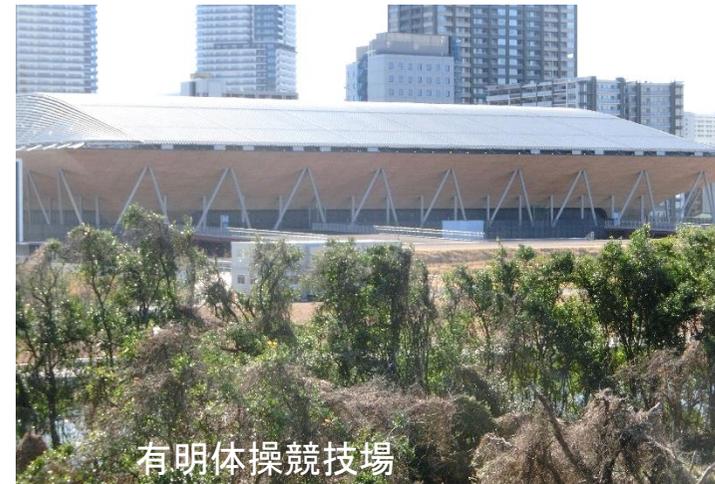
熱戦が繰り広げられた東京オリンピック・パラリンピックの会場施設は、国立競技場のように新たに建設されたものもたくさんあります。

そして、そこで使われる木材は持続可能性に配慮した基準を満たす違法性のない木材が使われました。

その一つが SGEC 認証木材で、上小地域の SGEC 認証木材も使われています。



この競技場の軒庇のきひさしに 47 都道府県の木材が使われています。長野県では、“青木村及び上田市共有財産組合”の SGEC 認証スギ材が使われました。



有明体操競技場は、オリンピックでは体操、パラリンピックではボッチャなどが行われた競技場です。

この施設は、世界最大規模となる木構造梁材もくこうぞうはりざいに、佐久・上小地域の SGEC 認証カラマツ材が、約 2,000 m³も使われています。

皆さんは SDGs という言葉を知っていると思います。SDGs については最終幕で話したいと思いますが、その 12 番目の目標に「作る責任 使う責任」というものがあります。

これは、「作る立場の人」はもとより「使う立場の人」も地球環境に対して責任があるということであり、SGEC 認証木材を使うということは、この責任をしっかりと果たしていくことにつながってくるといえます。

このことはぜひ知っておいてほしいと思います。

第十幕 木づかいの現場～有明西学園～

この建物は、東京都江東区立有明西学園の校舎です。
都市部では、実現が困難だった国産材をふんだんに使用した大規模な木の学校です。

実は、この建物にも信州カラマツが使われています。

都市部で木を使うとき、耐火(火事に耐える)が求められ、その耐火^{たいか}集成材^{しゅうせいざい}「燃エンウッド」を長和町の齋藤木材工業株式会社が製造しました。

話は、そこで終わりません。

このことが縁となって、有明西学園校長、長和町長、江東区長、長野県知事の4者による「有明西学園ふるさとの森づくり協定」が結ばれ、長和町有林(SGEC 認証森林でもある)でのカラマツ植樹体験や齋藤木材工業株式会社の工場見学など、学園の「移動教室」が毎年行われるようになりました。

森と木が都市と山村をつなげる、とてもいい話だと思いませんか。



丸太が集成材になるまでを見学



羽田長和町長と一緒に植樹

第十一幕 木づかいの現場～身近な木づかい～

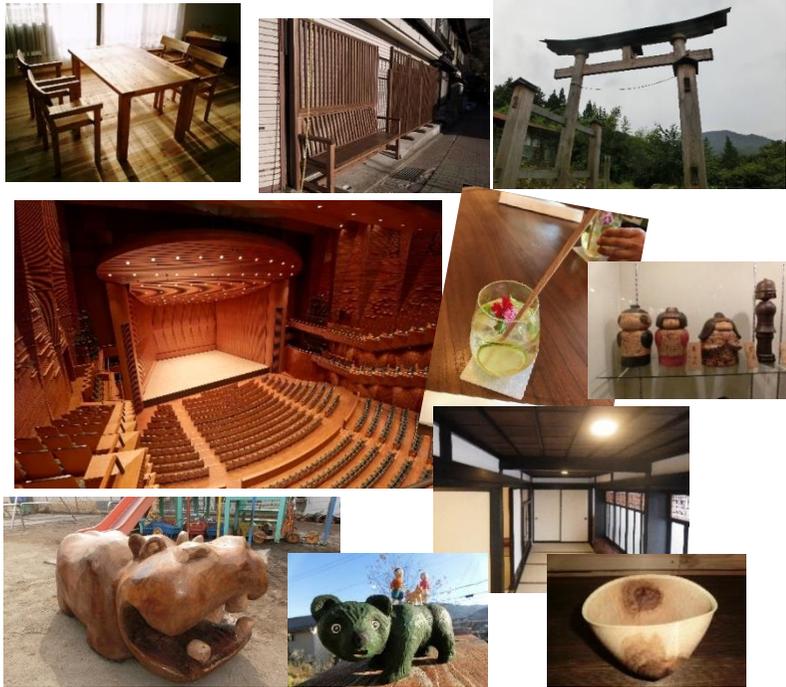
もっと身近な木づかいについて紹介します。

身の回りのプラスチックなどの製品を、少しずつ木の製品に替えていくことの大切さについて、ここまで話をしてきました。

例えば、木製ストローや木のおもちゃのように。

このような取り組みは少しずつ行われるようになっていきます。

ここでは、身近にあるたくさんのお木づかいについて写真で紹介します。



第十二幕 家の居間にて

ここまで、森を学び木づかいの現場を見てきました。
ここは、皆さんの家だと思ってください。
木に囲まれた快適な家があります。薪ストーブも暖かい。
水道をひねればおいしい水が出ます。
灯りも木質バイオマス発電の電気かもしれません。
あたりまえにある暮らしがなぜかありがたいと思いませんか。

柱や梁は^{はり}SGEC 認証森林で育った木かもしれない。
薪はきっと裏山の木です。
水道の水は普平ダムから引いていますが、ダム水源の森はSGEC 認証森林です。
その森では、鳥や蝶が舞い、クマが歩き回り、白や黄色の可憐な花が咲いているかもしれません。
そこは、生命にあふれる森、水を貯える森、太陽の光を受けて二酸化酸素を取り込み、酸素を吐く森です。
遠くにあった森が近くにあり、皆さんと繋がっているような感じがしませんか。

様々な生き物の住み家となり、枯れることなく水を供給し、木の体内に二酸化炭素を閉じ込め、私たちに必要な酸素を提供し、安全で快適な環境をつくり、土をつくり、持続可能な資源である木材を提供する森、一言ではいえない多くの贈り物を私たちは受けています。

皆さんは今、このような森からの恩恵に対して受け身の立場だけど、森づくりに参加したいと思った皆さんと、その方法を次幕以降で考えてみましょう。



第十三幕 森へ!～上田市太郎山にて～

まずは『森へ』行ってみましょう。
ここは上田市民の山、太郎山の裏参道登山口です。
森を見ながら太郎山の頂上に向けて出発です。



- ① 裏参道登山口
橋を渡ると案内看板があります。

- ② 最初はスギ林の中をジグザグに登ります。神社の参道はスギが多く、戸隠奥社のスギ並木などが有名です。
スギやカラマツなどが植えた森林を人工林といいます。



- ③ コナラやケヤキなど気持ちのよい広葉樹林の中を進みます。スギなど葉がとがっている木を針葉樹、広い葉を持つ木を広葉樹といいます。
ドングリから育ったコナラ林など自然力で育った森林を天然林といいます。



- ④ 手入れの行き届いた明るいカラマツ林の中を進みます。
この森林も人の手で植えられ育てられた森です。



- ⑤ カモシカに会うこともあります。太郎山の主です。

- ⑥ 峠からは坂城町方面が見えます。カラマツ林が広がり、よくぞ植えた、先人の営みに感動です。



- ⑦ 太郎山神社のある頂上一帯からは、上田市街地と千曲川、さらには美ヶ原や遠く富士山まで見渡せます。上小地域の山々は森におおわれ、この中にも SGEC 認証森林があります。

このように、森の中を歩くことを森林浴といい、とても健康になるそうです。

上小地域にはアルプスのような高い山はありませんが、半日程度で登れる小さな里山がとてもたくさんあり、そこを歩くと思わぬ発見や驚きがあるのでとても楽しいですよ。

第十四幕 森づくりへの参加

毎年春には、市町村等が開催する植樹祭(上小地域では森林祭)が県内各地で行われています。

平成 28 年には全国植樹祭が長野県で開催され、上小地域でも上田市東山が植樹会場となり、全国から多くの方々が訪れコナラなどの苗を植えました。

このような植樹行事に家族で参加することも森づくりを身近にする方法の一つです。

また、上田市や東御市など森林体験イベントを定期的に行っている市町村もあるし、学校にみどりの少年団があれば、少年団の活動を通じて森とつながることもできるでしょう。

地域に森林ボランティア団体があれば、活動に参加させてもらうこともいいと思います。

さらには、菅平高原にある「やまぼうし自然学校」には皆さんが森に入っていくための様々なプログラムがあり、もう一步森の世界に踏み出したいと思っている皆さんにとって、とても頼りになる相談相手になってくれると思います。

そして、何よりも自分の家で森を持っていれば、お父さんやお爺さんに連れて行ってもらうことから始めてもいいと思いますし、森や木に興味を持って、関係する本を読むことだって立派な参加です。



だけど、もう一つすぐにできる森づくりへの参加方法があります。最後の質問です。それは何でしょうか。これは、難しいよ。



地域の木材をできるだけ使うよう心掛けることが最後の質問への答えです。SGEC 認証木材ならもっといい。

そのことを通じて、森づくりのお手伝いすることになり、地域の森と皆さんとの繋がりができてきます。

だけど、皆さんの心の声も聞こえてきました。
地域の木材といたってどこに行けば手に入るの・・・。
反省です。このことについて次のページで考えましょう。

第十五幕 身近な暮らしの中で

自然の材料、木材をできるだけ使いましょう。それも地域材、できれば SGEC 認証木材を、とここまで述べてきました。「どこで手に入るの？」は自然に出る質問ですね。

昔は、といっても江戸時代ではなく、戦後にプラスチック製品などがでる前までは、職人さんの手による器やザルなど、木や竹でできた製品があふれていました。

それがあっという間にプラスチック製品などになってしまい、身の回りから木の製品が消えていきました。

木の製品が手に入りにくいのはこういった背景があります。

買う人がいて作る人がいて初めて物は商品になります。

どちらが先か、にわとりと卵みたいなものですが、今でも木の桶や木のおもちゃなどを作っている人はいますし、木に愛着を感じて買う人もいます。

さて、どこで木材を手に入れるかです。

家を建てるときは設計する人や工務店さんをお願いすることから始まりますが、皆さんには将来の話になりますね。

皆さんが木材を一番使うときは、DIY いわゆる日曜大工かもしれません。

この場合、ホームセンターには、国産のスギやヒノキ、アカマツなどの板もあります。外国のものより、日本のもの、長野県のものといった順に近くのものから選んだらどうでしょう。

そして、上小地域には上小木材協同組合という木材会社などが集まった組合もあり、ここに聞けば上小管内で作られている木材のことはわかります。

さらに、SGEC 認証木材を使ってみたいと思ったら、SGEC 認証木材による製品製造が認証されている工場（C o C 認証といいますが、シ-オー-シー）もありますので、まず上小木材協同組合に相談してみてください。ホームページもあるので検索してみてください。

このほか、紙製品などでエフエスシーF S C や SGEC というマークがついているものを見受けることがあります。このことは、この紙製品は認証森林の木を原料として作られている、ということを確認しており、スーパー等でこのマークを探してみるのも面白いですよ。

環境や社会問題等に配慮した賢い消費のことをエシカル消費というそうですが、買う人と作る人が一緒になって次の時代をつくっていくのだと思います。

簡単に買ってしまうのではなく、少し考えながら手間暇かけて探してみたらいかがでしょうか。それだけの価値はあると思います。

人間の歴史は失敗を何度も繰り返しながら発展してきました。戦争のように絶対に犯してならない過ちもありますが、小さな失敗は必要です。そこにはチャレンジがあります。

失敗から学ぶことができれば、皆さんが社会の中心となる次の時代に間に合います。エシカルな消費者となって、地域の木を使うことにぜひチャレンジしてもらえればと思います。

最終幕 SDGs 時代の森づくり



2015年に、ニューヨークの国連本部で「持続可能な開発サミット」が開催され、2030年までに達成する17の目標が掲げられました。この17の目標がSDGs(持続可能な開発目標)です。

一方、森林認証制度とは、認証機関が持続可能な経営を行っている森林を認証し、その認証された森林から伐り出された木材にマークをつけて、皆さんに安心して利用していただくための制度です。

SDGsと森林認証はとても親和性があり、認証森林で、森づくりや林業に取り組んでいくことは、SDGsの多くの目標達成に貢献します。

そして、上小地域にあるSGEC認証森林も、SDGsへの貢献が可能だと私たちは考えています。

SDGsの17目標には169の具体的なターゲットがあり、この目標とターゲットは地球に生きる全ての人々を対象としており、私たちは目標が達成されたときの受益者であり、目標達成に向けて取組みを進める行動者でもあります。

森づくりへの参加やSGEC認証木材を利用するということは、SDGsへの貢献につながります。小さな行動でも第一歩を踏み出すことが大切なのだと思います。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



おわりに

私たち人類の共通の祖先は、はるか昔アフリカの森の中で生まれたそうです。そして、森から草原にでて、さらにアフリカからも出て、ヨーロッパやアジアへ進出し、昔は陸地で繋がっていたベーリング海峡を通して北アメリカ、南アメリカまで到達し、地球上に広がっていったそうです。

それから、たくさんの文明が生まれ、いくつもの文明が減んでいきました。減んだ原因の一つに森林の破壊と砂漠化があったとのことでした。

一方、日本はどうでしょう。森はたくさんあるように見えますが、行き過ぎた利用でハゲ山が多くなった時代が過去にありました。

最近では、戦中から戦後にかけて、今から70年～80年位前がそうです。

皆さんが現在見ている森林は、そのあとに植えられたものが多く、今は大きく育ってきました。

世界は今、地球温暖化問題やSDGsの17目標などの課題をかかえています。これからの世界を考えていくとき、ここまで育ってきた森林を、皆さんがどのように活かしていくかがとても大切になります。

そして、森林は社会全体の共通する財産でもあり、林業は社会とともにあること、社会に貢献することが大切だと思います。

2021年には、上小地域のSGEC認証森林をフィールドとして『にぎやかな森プロジェクト～いきものや人でにぎわう地球にいい森を目指す～』という取組みが、地域の皆さんの支援のもとスタートしました。いつか別の機会に皆さんに紹介できたらと思っています。

社会と森林・林業の関係を深めるため、まず知ってもらうことから始めたいとの思いでこの本をまとめました。そのきっかけになれば幸いです。



発行：2022.10 『森と木の話』編集委員会

○ 上小林業振興会・上小森林認証協議会

〒386-8555 長野県上田市材木町1-2-6 上田合同庁舎内

TEL:0268-23-1260 E-mail:jfrg@po13.ueda.ne.jp

○ 上小木材協同組合

〒386-0151 長野県上田市芳田1818-1

TEL:0268-35-1400 E-mail:joshomokukyo@au.wakwak.com

